



TITLE:

附属図書館100周年：次の百年

AUTHOR(S):

田中, 耕二

---

CITATION:

田中, 耕二. 附属図書館100周年：次の百年. 静脩 2000, 36(3): 15-16

ISSUE DATE:

2000-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37557>

RIGHT:

# 附属図書館百周年

## 次の百年

附属図書館情報サービス課資料運用掛長 田 中 耕 二

図書館百周年を迎えて、次の世紀への展望を試みるというのが当欄の趣旨であるが、次の百年に図書館自体がどうなっていくかなど、全く見当もつかない。

ことは図書館自体だけでなく、大学全体、ひいては学問というもののあり方そのものの変化によって、大きくかわってくる。

巷では、電子図書館がどうのとか、情報媒体や情報流通経路のことばかりに注目が集まっているようであるが、実は情報を生み出す学問、そして人間のあり方がどのようにになっていくかということが、一番根本にあるのだ。

次の世紀に、人間は社会はどのように変化してゆくか？ 一つ言えるのは、それは、あらゆる意味での「近代」を超克してゆく動きであるだろうということだ。（図書館というのもその「近代」から生まれたものなのであるが。）

「近代」の超克は、現在のあらゆる価値観の転倒をとともなうものだ。「近代」が確立した「資本主義」による効率性・生産性とそれを可能にする「競争」。（実は現在の学問のあり方、ひいては人間のあり方がこの「競争による効率性と生産性の向上」という原理に支配されているのだ）政治面では「民主主義」と「基本的人権」。近代はこれらの価値を確立し「進歩」の夢を謳ったのであるが、近代の超克に伴ってこれらの価値は総じてひっくりかえってしまうように思われる。

最も特徴的なのは、「近代」の根底に横たわる「進歩」という概念がもはやそれほど意味を持たなくなるだろうということである。実は学問、なかんずく「科学」はこの進歩の概念抜きには成り立ち得ない体のものであるから、科学そして学問の存在理由そのものが根源的に問われるようになるのは必然であろうと思われる。

近代における大学の図書館はこの「進歩」を存在理由とする学問に奉仕するために生まれ活

動してきたわけであるから、図書館の存在理由をも根源的に転回させられることになるだろう。「学問」が生産する「情報」の意味自体が根本的にかわってくるだろうし、それらの情報をもとめる人々が、何のために情報を得ようとするのかも、今からは考えられないような状況になるのではなかろうか。電子化を中心とする現在の情報環境は、1分1秒でも早くというのがその根本的な動因になっているが、これは競争原理ひいては「進歩」の概念がもたらすもので、これがひっくりかえると情報環境は全く様変わりしてしまうはずである。では、具体的にどのような状態になってしまうだろうか。

考えられるのは、人々はたぶん「目に見えるもの」より「目に見えないもの」により深く関心を示すようになるだろうということだ。この状況では、メディアというものは（図書などの伝統的な情報媒体も含めて）知識の量的増加のためにあるのではなくなくなる。人々は知識の量的増加にはあまり関心を示さない。人々は自己の奥深くへ分け入り、そこにすでにあるもの、すでにあったものを「発見」しようとする。すでにあるものでありながら隠されていたものを、自らの目の前に明らかにしようとしてとめる。そこでは知識の獲得ではなく根源的な知恵の発見が問題となる。

このような知恵の発見は、近代的学問のように、確立された客観的な方法論のもとで一步一步階段をのぼるように成果をつみかさねてゆくというようなやり方では、達成できない。知恵の発見のためには、確立された客観的な方法論など存在しない。自分自身の手で、自分の全人格的な行為として、つまり「魂」の運動として行われなければならない。そしてそれには、他の同行者との全人格的なつながりにより、あい助け合いながら行われていくことが不可欠であろう。

このような状況下では、「本」は、過去の人間との語り合いつまり真の意味での対話を可能にするもの、自己の魂の同行者となりうるもののみが意味を持つ。そして図書館も、過去の

人々との対話の場としてのみ意味をもつようになるだろう。その風景を、今から具体的に思い浮かべるのは、不可能であるが。

(たなか こうじ)

## 教官寄贈図書一覧(平成11年9月～11月)

身 分	寄贈者氏名	寄贈図書名	出版社	出版年
名誉教授	山田慶児	Medicine and the History of the Body	Ishiyaku Euro America, Inc	1999
名誉教授	近藤良夫	Human Motivation	3A corporation	1989
名誉教授	近藤良夫	Companywide Quality Control	3A corporation	1993
名誉教授	近藤良夫	統計的方法百問百答	日科技連	1982
名誉教授	近藤良夫	おはなしモチベーション	日本規格協会	1992
名誉教授	近藤良夫	野外工学のすすめQC百話	日本規格協会	1999
教授	上田皖亮	カオス・インパクト	森北出版	1999
名誉教授	米澤貞次郎	ノーベル賞の周辺	化学同人	1999
総長	長尾 真	食べる速さの生態学	京都大学学術出版会	1998
総長	長尾 真	ミクロ社会生態学	京都大学学術出版会	1999
総長	長尾 真	インドネシアの地場産業	京都大学学術出版会	1998
総長	長尾 真	地域間研究 の試み 下	京都大学学術出版会	1998
総長	長尾 真	日本語音声の研究1 5	和泉出版	1994
教授	佐藤文彦	遺伝子組換え植物の光と影	学出版センター	1999
教授	田中一義	The Science and Technology of Carbon nanotube	Elsevier	1999
教授	夫馬 進	増訂 使琉球録解題及び研究	榕樹書林	1999